

## 「中風の人」

マルコの福音書 2:1~5

### はじめに

今回はイエシュアがツアラアトと呼ばれる病を患った人を癒された出来事から、そこに「型」として表された、イスラエルに対する神のご計画を見出し分かち合いました。神のご計画においてイスラエルの存在は絶対に必要不可欠です。今日の内容もそれを強く主張するようなものになっています。早速見てまいりましょう。

#### 【新改訳 2017】

##### マルコの福音書

2:1 数日たって、イエスが再びカペナウムに來られると、家におられることが知れ渡った。

2:2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまで隙間もないほどになった。イエスは、この人たちにみことばを話しておられた。

### 1. 家に集まる

「イエスが再び…來られる」という表現を見て、これはイエシュアの再臨について何か指し示しているのではないかと思われた人がいるでしょうか。もしいたらその人は神の国から遠くない人です、というのは半分冗談ですが(笑)、イエシュアがおられた「家」に多くの人「集まった」様子が描かれています。この「家」をヘブル語でバイト(בַּיִת)と言い、本来は創世記に記された、ノアの箱舟の中に作られた部屋の中、内側を指し示す言葉です。

#### 【新改訳 2017】

##### 創世記

6:13 神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に來ようとしている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。見よ、わたしは彼らを地とともに滅ぼし去る。

6:14 あなたは自分のために、ゴフェルの木で箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外にタールを塗りなさい。

かつて神は全地に及ぶ大洪水によって地上のすべての生き物を滅ぼし尽くされました。しかし「箱舟の部屋」の「内」バイトに入ったノアと彼の家族、及び動物たちだけは救われました。このように「家」と訳されたバイトとは本来、救われること、滅びを免れ生き残ることを指し示していると考えられます。ですからイエシュアがこの「家」におられたという記述の中に、救われることとは、イエシュアのおられるところに来ることと同義であることが「型」として表されていると考えられます。そして多くの人「集まった」と記されていますが、「集まる」という意味のヘブル語ア-サフ(אָסַף)は本来、同

じくノアの箱舟の出来事において、箱舟の中、「内」に入ったものたちが食べるための食物が集められたことに由来します。

【新改訳 2017】

創世記

6:21 あなたは、食べられるあらゆるものから採って、自分のところに集め、あなたとそれらの動物のための食物としなさい。」

このようにアーサフ「集め」るとは本来、食べることを指し示していることがわかります。食べることは生きること、そして生き続けることを意味します。この「食べる」という意味の動詞アーハル(אָחַל)は本来、神が人にお命じなされた第一の命令を指し示しており、神のご命令に聞き従うことを意味していると考えられます。

【新改訳 2017】

創世記

2:16 神である【主】は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

2:17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

これはエデンの園において神が人に「命じられた」最初のご命令であり、また唯一のご命令でした。人は神のご命令に聞き従うことで生き、これに聞き従わず、自分で「善悪」を判断する者となるならば死ぬことが示されています。その象徴である「食べる」ための食物を「集める」アーサフとは本来、神のご命令に聞き従う、聞き従い続けることを指し示していると考えられます。ですからイエシュアがおられた「家」に多くの人が「集まった」というこの様子は、イエシュアのみもとに集められる者は救われ、神のご命令に聞き従う者とされて生き続ける、という良い知らせ、福音が表されていると考えられます。

そしてこの「家」は「戸口のところまで隙間もないほどになった。」と記されています。どれほどの広さの家であったのかはわかりませんが、ここで注目したいのは、「家」の中は「集まった」人でいっぱいになったけれども、この時点で「家」の中に入ることができなかった人はいなかったということです。つまりイエシュアを求めて「集まった」人はみなこの「家」に入ることができたのです。これはイエシュアのおられる「家」に集められ、そこに入る者、すなわちイエシュアによって救われる者が、神のご計画による選びによって、あらかじめ定められていることが表されていると考えられます。これは神のご計画の完成である「神の国」に入るべき人には、一人ひとりに場所が用意されているということであり、その場所に立つべき人は必ず救われるのであり、「隙間」すなわち場所が用意されている人が「神の国」に入らないということが決してないということがこの「戸口のところまで隙間もないほどになった。」という描写の中に「型」として示されていると考えられます。

【新改訳 2017】

マルコの福音書

2:3 すると、人々が一人の中風の人を、みもとに連れて来た。彼は四人の人に担がれていた。

## 2. 打たれる

イエシュアのみもとに「中風」という病を患った一人の人が連れて来られました。今日では脳血管障害の後遺症である半身不随、片まひ、言語障害、手足のしびれやまひなどを指す言葉として用いられていますが、ヘブル語では「打たれる、打ち倒される」という意味の動詞ナーハー(נָהַר)の形容詞形が使われており、「中風」はヘブル語的には「打たれた者、打ち倒された者」という意味であると考えられます。ではこのナーハーの最初の言及からその本来の意味を見てみましょう。

【新改訳 2017】

創世記

4:11 今や、あなたはのろわれている。そして、口を開けてあなたの手から弟の血を受けた大地から、あなたは追い出される。

4:12 あなたが耕しても、大地はもはや、あなたのために作物を生じさせない。あなたは地上をさまよひ歩くさすらい人となる。」

4:13 カインは【主】に言った。「私の咎は大きすぎて、負いきれません。」

4:14 あなたが、今日、私を大地の面から追い出されたので、私はあなたの御顔を避けて隠れ、地上をさまよひ歩くさすらい人となります。私を見つけた人は、だれでも私を殺すでしょう。」

4:15 【主】は彼に言われた。「それゆえ、わたしは言う。だれであれ、カインを殺す者は七倍の復讐を受ける。」【主】は、彼を見つけた人が、だれも彼を打ち殺すことのないように、カインに一つのしるしをつけられた。

これはアダムの息子である兄カインと弟アベルの出来事です。弟のアベルは神に目を留められ受け入れられましたが、兄のカインはそれを妬み、彼を殺してしまいました。神は兄のカインにのろいをかけ、「地上をさまよひ歩くさすらい人」とされました。しかし「彼を見つけた人が、だれも彼を打ち殺すことのないように、カインに一つのしるしをつけられた。」という箇所には聖書で最初のナーハーがあります。このカインの出来事はある存在を指し示しています。アベルのように神に目を留められ、受け入れられた者を殺し、地上をさまようべく国土を失った者たち、このカインの姿はイスラエルの民を指し示していると考えられます。彼らはその歴史の中で多くの預言者たちを殺し、ついには神の御子であるイエシュアさえも十字架にかけて殺してしまうからです。彼らは長きにわたり国を失い、今日においても国土はほとんど回復しておらず、イスラエルの民はその多くが離散の状態にあります。しかしたとえ国を失い、世界中に離散させられても、この民がイスラエルの民としての民族性を失い、滅び失せることはありませんでした。神が「だれも彼を打ち殺すことのないように」イスラエルの民を選んでおられるのです。このようにカインの姿はイスラエルの民を指し示していると考えられます。ですからこの「中風」を患った人とはイスラエルの民を指し示していると考えられます。

そしてこの人は「四人の人に担がれていた。」と記されています。これは以前にもお伝えしましたが、聖書において「四」という数は地の「四隅」、東西南北の「四方」を表し、全世界を指し示す数であると考えられます。すなわち以下のように預言されている通りです。

【新改訳 2017】

イザヤ書

11:12 主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。

「イスラエルの散らされた者を…地の四隅から集められる」こと、それが「中風の人」が「四人の人に担がれて」イエシュアのみもとに連れて来られたという記述の中に「型」として指し示されていると考えられます。

【新改訳 2017】

マルコの福音書

2:4 彼らは群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、イエスがおられるあたりの屋根をはがし、穴を開けて、中風の人が寝ている寝床をつり降ろした。

### 3. 屋根をはがす

「中風の人」は「群衆のためにイエスに近づくことができなかつた」とあります。つまりイスラエルの民は「群衆」のためにイエシュアに近づけなかつたということになりますが、ではこの「群衆」とは一体何を指し示しているのでしょうか。やはりこれは私たち異邦人の教会を指し示していると考えられます。もともと教会とはイスラエルの民、ユダヤ人であったイエシュアの弟子たちから始まったものでした。しかし長い歴史の中で教会は世界中に広がり、異邦人の数が増し加わる一方で、イスラエルの民、ユダヤ人的な思考を排斥していったのです。今日の教会が旧約聖書を持ちながらイスラエルの歴史や文化、その習わしやしきたりに疎いのはそのためです。それがこの描写に「型」として表されていると考えられます。しかし神はイスラエルの民を、彼らに与えられた教え、そして約束を排斥されません。神はこの民を異邦人の屋根、すなわち上に置くという御計画をお持ちなのです。それが「イエスがおられるあたりの屋根をはがし、穴を開けて、中風の人が寝ている寝床をつり降ろした。」という描写の中に「型」として表されていると考えられます。まず「(屋根を) はがし」とありますが、ヘブル語でこれをスール(גור)と言い、その本来の意味が創世記 8:13 にあります。

【新改訳 2017】

創世記

8:13 六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。

かつて全世界を水没させた大洪水、その終わりが描かれた箇所です。水は地の上から干上がり、ノアが箱舟の覆いを「取り払って」と訳されているのが聖書で最初のスールです。このようにスールが本来指し示しているものは滅びの終わり、そして新しい地の始まりです。今のこの時代はやがて滅び去ります。しかしそれですべてが終わるわけではありません。新しい地、新しい国、「神の国」が始まるのです。その時地上のすべての民族、部族の上に立ち、国々を祝福する存在として立てられるのがイスラエルの民です。

#### 4. 穴を開けて

また「穴を開けて」とも記されていますが、ここにはハータル(הָתַר)という動詞が使われています。これはヨブ記にその最初の言及があると考えられます。

【新改訳 2017】

ヨブ記

24:16 彼は暗くなってから家々に侵入する。昼間は閉じこもっていて光を知らない。

ここで「家々に侵入する」と訳されているのが聖書で最初のハータルです。イスラエルの民、ユダヤ人が「家々に侵入する」、すなわち「神の国」に入るのは「暗くなってから」つまり闇の中を通らされてからです。今はまだ「閉じこもっていて」すなわち真理が隠されていて、「光を知らない」すなわち神のご計画を、イエシュアがメシアであることを知りません。しかし「大患難時代」とも呼ばれる、未曾有の天変地異と戦争が起こり、さらにサタン、そして「獣」と呼ばれる反キリスト、偽預言者たちによってイスラエルの民に対する大迫害が起こり、彼らは非常な苦しみの中を通らされます。この暗闇の中でイスラエルの民は目が開かれ、イエシュアがメシアであることを知ることがこの「穴を開けて」と記されたハータルの本来の意味が指し示す神のご計画であると考えられます。

#### 5. つり降ろした

そして次に「つり降ろした」という記述には、イスラエルの民がメシアであるイエシュアを呼び求めて叫ぶその時、イエシュアは再びこの地上に降りて来られることが指し示されていると考えられます。これをヘブル語でヤーラド(יָרַד)と言います。

【新改訳 2017】

創世記

11:5 そのとき【主】は、人間が建てた町と塔を見るために降りて来られた。

これはバベルの塔の出来事です。かつてバベルの人々は自分たちを神とし、天に届く塔を建てようと計画しました。しかし神はヤーラド「降りて来られ」この計画を打ち壊されました。それは以下のようにも記されている通りです。

【新改訳 2017】

I ヨハネの手紙

3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。

このように、イエシュアが再びこの地に来られるのは、「神の国」を建てるために、サタンの仕業を、人の計画を打ち壊すことであることが、この「**つり降ろした**」と記されたヤーラド本来の指し示す神のご計画であると考えられます。

【新改訳 2017】

マルコの福音書

2:5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、あなたの罪は赦された」と言われた。

## 6. 罪は赦された

そしてイエシュアはこの「**中風の人**」を癒されるよりも先に「**子よ、あなたの罪は赦された**」と言われました。この人や、この人を連れて来た四人の人の願いは、きっと中風が癒されることだったでしょう。しかしイエシュアの、神の願い、御心はこの人の「**罪を赦す**」ことでした。神の願い、神のご計画は人の願いよりも優先されるべき重要なものであることが示されていると考えられます。そしてこの「**(罪を) 赦す**」という意味のヘブル語サーラハ(חָלַח)は本来、イスラエルの罪が赦されることを指し示しています。

【新改訳 2017】

出エジプト記

34:4 そこで、モーセは前のものと同じような二枚の石の板を切り取り、翌朝早く、【主】が命じられたとおりにシナイ山に登った。彼は手に二枚の石の板を持っていた。

34:5 【主】は雲の中であって降りて来られ、彼とともにそこに立って、【主】の名を宣言された。

34:8 モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏した。

34:9 彼は言った。「ああ、主よ。もし私がみこころにかなっているのでしたら、どうか主が私たちのただ中にいて、進んでくださいますように。確かに、この民はうなじを固くする民ですが、どうか私たちの咎と**罪を赦し**、私たちをご自分の所有としてくださいますように。」

これはモーセによってイスラエルの民が再び「**二枚の石の板**」に記された「**十戒**」とも呼ばれる律法を受け取る場面です。「**前のもの**」一度目のものは、彼らの犯した偶像礼拝の罪のために壊されてしまいましたが、これは確かにイスラエルの民に与えられました。そこでモーセが祈った言葉の中に、聖書で最初のサーラハがあります。それは「**うなじを固くする民**」、かたくなに神に逆らうイスラエルの民が、ついに彼らの心に律法「**二枚の石の板**」が書き記されて、「**ご自分の所有**」すなわち神のもの、聖なる民

とされる、変えられるという神のご計画を指し示していると考えられます。以下のように預言されている通りです。

【新改訳 2017】

エレミヤ書

31:33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——【主】のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

この預言、契約の成就が、イエシュアが「中風の人に『子よ、あなたの罪は赦された』と言われた。」という出来事の中に「型」として表されていると考えられます。

神のご計画である「神の国」、それはイスラエルの民がイエシュアをメシアとして呼び求め、イエシュアによって集められ、神の所有の民として変えられることで完成し、そして始まります。今日は前回とはまた別の角度から、神のご計画におけるイエシュアと、そしてイスラエルの重要性を見ることができたと思います。このように、聖書に記された様々な出来事の中に、「型」として表されたイエシュアと、そしてイスラエルに対する神のご計画を見出すこと、それが「神の国」を求める者としての、神の御言葉に対する姿勢、持つべき重要な視点であると信じます。これからもますます「神の国」を求めてまいりましょう。御霊の助けがありますように。